

○計画期間:令和2年4月～令和7年3月(5年0月)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和3年度終了時点(令和4年3月31日時点)の中心市街地の概況

本市は、令和2年3月30日に第3期目となる中心市街地活性化基本計画の認定を受け、「国内外の人々が行き交い愛され、市民が愛着をもつ 城下（まち）」を基本テーマに、実現に向けた4つの基本方針のもと、同計画に掲げる39事業の推進に取り組んでいる。

姫路駅から世界文化遺産・国宝姫路城を結ぶ本市のメインストリートである「大手前通り」の再整備が令和2年3月に完了したが、歩行者道路に利活用スペース（ウッドデッキ）やベンチを設置することで滞留空間を創出し、「歩いて楽しい道」への転換を推進している。また、令和3年2月12日には大手前通りを全国で初めてとなる「歩行者利便増進道路（通称：ほこみち）」に指定し、公共空間で民間事業者が事業を展開しやすい環境づくりに公民一体となり取り組んでいる。令和4年5月にほこみち制度による占用予定者が選定されたことから、今後は、大手前通りを中心に居心地が良く歩きたくなるまちなかを目指し、公共空間の利活用をより推進していく。

また、第1期計画から引き続き姫路駅周辺土地区画整理事業などの姫路駅周辺整備事業に取り組む中、キャストィ21イベントゾーンにおいて、令和4年5月に開院した「県立はりま姫路総合医療センター」は、播磨姫路圏域の高度医療・急性期医療を担う総合医療機関に加え、医療人材育成・臨床研究の場として医療人材育成機関の側面も兼ね備えており、今後は、播磨地域一体の医療福祉のコア施設として機能していくことが期待される。その他、本市の新しい交流拠点として、令和3年9月に「アクリエひめじ」が開館した。同施設は、文化芸術の拠点としての機能と、「ものづくり力の強化」、「地域ブランドの育成」、「交流人口の増加」を促進する機能を有していることから、市民文化の振興並びに都市魅力の創造、発信を図り、地域住民の相互交流と中心市街地のにぎわい、都市の発展に大きな役割を果たすことが期待される。更に、アクリエひめじの開館により、2,000人規模のMICEを誘致することが可能となったため、令和3年11月に地域DMOとなった姫路観光コンベンションビューローを中心に、関係者が一体となって観光地域づくりに取り組むことで、国際会議観光都市・MICE都市の発展につなげていきたい。また、ハード整備と中心市街地における居住者数に関して、これまで中心市街地のハード整備が進むにつれ、民間事業者によるマンション建設も進み、居住者数が増加していったが、徐々にマンションの建設も落ち着きを見せ、居住者数の増加幅も緩やかになっている。

令和2年初頭から今もなお世界的に猛威を振るう新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響は、本市中心市街地への来街者にも大きな影響を及ぼしている。特に、姫路城の来城者数は顕著であり、令和3年度の年間入城者数は約44万人（うち外国人観光客は

約7千人)であった。令和2年度からは約5万人程度増加したが、感染症の流行拡大以前の水準(令和元年度:約154万人(うち外国人観光客は約39万人))には戻っていない。一方で、中心市街地の通行量は2年連続で減少しており、姫路城の来城者数の推移との連動性は見られない。令和4年度は、幅広い年代にワクチンの追加接種が進むことで、感染症の流行状況に適応したライフスタイルの更なる普及が予測される。今後も感染症の流行状況が中心市街地の人流に影響を及ぼすことを念頭に事業を実施する必要がある。

令和3年度は中心市街地商店街における新規出店店舗数が39件と、本計画が開始となった令和2年度からの累計で66店舗が新たに新出している。令和2年度の空き店舗数は、感染症の流行拡大の影響もあり31件から50件まで増加したが、ワクチン接種等により少々落ち着きが見えてきたことや、新規出店者への支援制度の活用が進んだこともあり改善の兆しが見え始めている。また、商店街以外のエリアである姫路駅西地区でも、遊休不動産の増加や後継者不足といった地域の課題解決を図るとともに、若者がチャレンジしやすい環境づくりに取り組み、活力とにぎわいのあるエリア再生を目指すため、地元のまちづくり協議会と連携し、リノベーションまちづくりの取組みが進んでいる。

令和4年度以降は、「新しい生活様式」を意識しつつ、中心市街地での滞留をより一層促し、感染症の流行拡大以前を超えるにぎわいの創出を推し進めて行く。

**【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】**

(1) 居住人口 (基準日: 毎年度3月31日時点) (単位: 人)

(中心市街地 区域)	令和元年度	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)
人口	10,840	10,949	10,948			
人口増減数		109	▲1			
自然増減数		0	▲28			
社会増減数		109	27			
転入者数		1411	1242			

(2) 小売販売額 (単位: 百万円)

	令和元年度	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)
市全体						
中心市街地						

※現時点での最新値が「経済センサス活動調査(平成28年度)」であるため、記載不可

(3) 事業所数 (単位: 件)

	令和元年度	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)

市全体						
中心市街地						

※現時点での最新値が「経済センサス活動調査（平成28年度）」であるため、記載不可

#### (4) 地価

(単位：円/㎡)

	令和元年度	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)
呉服町32番	430,000	420,000	412,000			
駅前町252番	1,700,000	1,620,000	1,590,000			
西二階町22番	152,000	152,000	152,000			
忍町88番外	268,000	269,000	269,000			
豊沢町129番	235,000	235,000	236,000			
東延末1丁目4番	510,000	510,000	510,000			
延末1丁目100番	102,000	103,000	104,000			

## 2. 令和3年度 of 取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

「新型コロナウイルス感染症拡大」による行動制限や「原材料・商品等の入荷遅延及び仕入れ価格上昇」による経営上の懸念は、事業者の営業活動を圧迫し、商店街活動をはじめ中心市街地活性化に資する各種事業の実施に影響を及ぼし、街の活力低下を危惧している。

今後、中心市街地を活性させるべく、以下の点に留意すること。

### 1. 街の活力向上に資する事業への更なる支援拡充について

「商店街空き店舗対策事業」をはじめ「まちなか創業支援事業」や「リノベーションまちづくり事業」等を通じて中心市街地エリアへの新規出店（起業）や地域の担い手育成を促すなど、街の活力向上に資する視線に積極的に取り組んでいる。

については、同施策の継続的な予算の確保、並びにまちの活性化に繋がる支援の拡充に引き続き取り組むことを要望する。

### 2. 中心部における各種データの分析及び公開について

中心部における人口推移や居住者属性等の各種データを分析・発信することは、既存事業者にとって経営戦略策定時の基礎資料となると同時に、新規事業者においても出店誘発に繋がる重要な情報である。

については、姫路経済研究所等と連携し、定期的なデータ分析を行うとともに積極的な情報開示に取り組むことを要望する。

### 3. 各種団体との連携（情報共有）の強化について

市民、観光客、地域事業者の利便性向上や滞留時間の延長も含めた賑わい創出につながる事業の1つとして、「歩行者利便増進道路制度『ほこみち』」に取り組んでいる。当事業をはじめとした中心市街地活性化に資する事業について、庁内での窓口が

産業局に一本化・担当者が配置され、各種調整を図る体制となった点は大いに評価できる。一方で大手前通りを起点に新たな人流を中心市街地全体へ普及させることを目指すためには、中心市街地エリアで活動する各種団体との連携も不可欠と考える。

については、商店街をはじめとしたまちづくり団体や商工会議所、また観光マネジメント組織である姫路DMO（公益社団法人姫路観光コンベンションビューロー）等とも連携を密に図りながら当該事業を推進することが必要と考える。

## II. 目標ごとのフォローアップ結果

### 1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
国際観光都市「姫路」ブランドの確立	歩行者・自転車通行量	106,266 人/日 (H27～R1 の平均値)	110,000 人/日 (R6 年度)	59,915 人/日 (R3 年度)	C	①	①
姫路城、商店街、駅前を結ぶ魅力の創出	新規出店店舗数	11 店舗(1 年間) (H29.12～H30.12)	60 店舗(5 年間) (R2 年度～R6 年度の累計)	66 店舗(2 年間) (R2 年度～R3 年度の累計)	A	①	①
	空き店舗数 (補完目標)	31 店舗 (H30 年度)	26 店舗 (R6 年度)	38 店舗 (R3 年度)	C	①	①
楽しさと安心感のある多世代居住の推進	居住者数	10,520 人 (H30 年度)	10,820 人 (R6 年度)	10,944 人 (R3 年度)	A	①	①
持続可能なエリアマネジメントの構築	来街者の中 心市街地での 滞留時間 (補完目標)	156.6 分/人 (R1 年度)	180.0 分/人 (R6 年度)	令和4年度フォローアップ			

< 基準値からの改善状況 >

A : 目標達成、B : 基準値より改善、C : 基準値に及ばない

< 目標達成に関する見通しの分類 >

① 目標達成が見込まれる ② 目標達成が見込まれない

※ 関連する事業等の進捗状況が順調でない場合はそれぞれ 1、2 とする。

### 2. 目標達成見通しの理由

「歩行者・自転車通行量」については、令和3年6月の通行量は59,915人で、前年同時期（令和2年6月）における通行量（65,263人）から5,348人（8.2%）減少した。また、感染症の流行拡大以前の平成31年4月の通行量（113,359人）の52.8%であった。調査を実施した6月27日（日）は、まん延防止等重点措置実施期間中（令和3年6月21日～7月11日）であったことから通行量が減少したものと考えられる。一方で、令和3年9月に開館した「アクリエひめじ」や、令和4年5月に開院した「県立はりま姫路総合医療センター」による新たな人流を中心市街地にも誘引し、回遊を高める施策を進めるとともに、ウォーカブル推進事業のもと安心して歩ける環境や滞在環境の向上を図り、居心地が良く歩きたくなるまちなかづくりも同時に進めることで目標の達成を目指す。

「新規出店店舗数」については、令和2年度からの合算では66店舗となり目標を達成した。また、「空き店舗数」についても、昨年度の50店舗から減少するなど、改善の兆しが見られる。新規出店者への支援制度の利用も令和2年度と比べると増加しており（街なか創業支援事業：0件→6件、中心市街地商店街空き店舗対策事業：6件→14件）、感

感染症の流行拡大によって出店を控えていた事業者が、令和3年度に開店へ舵を切ったものと推測される。また、感染症の流行拡大のため従来の出店地域や業務形態を見直した店舗の台頭も見受けられるなど、地域密着型の商店街空き店舗への入居や、テイクアウト等の新たな業態の店舗の開店等により、新規出店店舗数は増加傾向にある。今後も事業を継続して推進することで補完目標も含めた目標達成を目指す。

「居住者数」については、現時点で目標は達成しており、今後も増加していくものと見込まれる。主要事業である姫路駅周辺土地区画整理事業等による居住環境の整備のほか、「アクリエひめじ」や「県立はりま姫路総合医療センター」等の整備により、まちなか居住の魅力が向上（平成30年に実施した中心市街地のマンション居住者を対象としたアンケート調査では、中心市街地へ転居した理由のうち「生活利便施設の充実」「周辺環境の整備」が4割近くを占めていた）し、中心市街地の居住人口は順調に増加している。

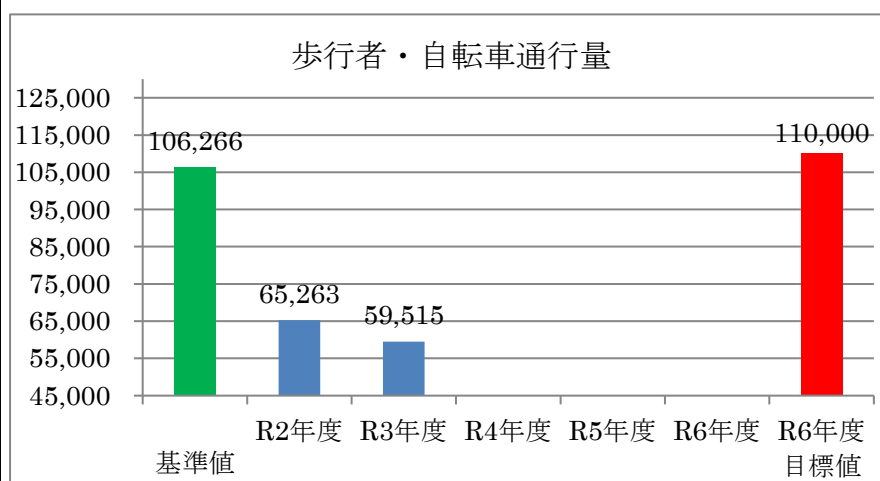
### 3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回から変更はない。

### 4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1) 「歩行者・自転車通行量」※目標設定の考え方は認定基本計画 P. 89～P. 93 参照

#### ●調査結果と分析



年	(単位)
H27年～R1 年度平均	106,266 (基準年値)
R2	65,263
R3	59,915
R4	
R5	
R6	
R6	110,000 (目標値)

※調査方法：歩行者・自転車通行量調査、毎年4月29日に10地点において10時～18時で計測

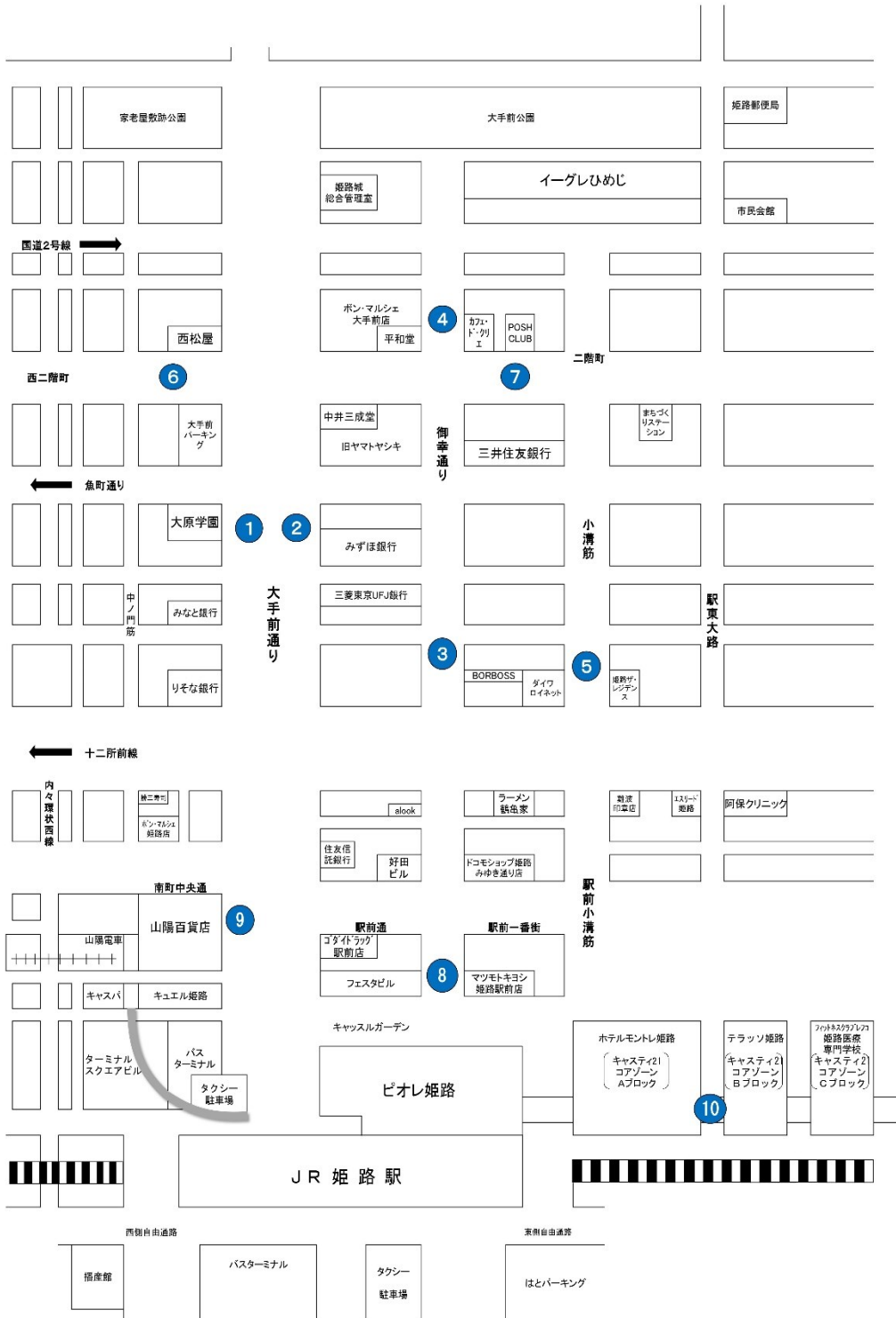
※調査月：令和3年6月（緊急事態宣言の発出に伴い4月から変更）

※調査主体：姫路市

※調査対象：中心市街地内10地点における歩行者及び自転車の通行量



# 中心市街地通行量調査(位置図)



(単位：人)

	令和元年度 (※)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)
地点1	7,884	2,968	2,932			
地点2	8,026	2,388	2,730			
地点3	20,023	11,102	9,648			
地点4	16,162	6,495	6,292			
地点5	6,459	4,303	3,563			
地点6	4,709	2,402	2,488			
地点7	7,171	3,770	3,365			
地点8	23,192	19,156	15,982			
地点9	12,096	7,767	7,169			
地点10	7,637	4,912	5,746			

※計画上の基準値は平成27年から令和元年の平均値であるが、比較しやすくするため令和元年度の数値を記載

### 〈分析内容〉

歩行者・自転車通行量の増加に向けた各事業については、概ね予定どおり進捗した。

しかしながら、昨年度と同様、感染症の感染拡大の影響が人々の外出忌避に繋がるなど、10地点のほぼ全てにおいて令和2年度と比較して、通行量が若干減少している。ただし、調査時に兵庫県の新型コロナウイルスワクチン大規模接種会場となっていたアクリエひめじは、姫路駅から徒歩圏内であることから、ルート上となっている地点10の通行量は、昨年度比117%であった。

以上の結果により、感染症の感染拡大の状況やアクリエひめじでの催事により、中心市街地内の人流が大きく変化することから、通行量の変化に十分注視するとともに、施策への効果がどの程度なのか等、調査結果を事業検証ツールの一つとして活用していく。

### ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

#### ①. 姫路市文化コンベンションセンター活用事業（姫路市、民間等）

事業実施期間	令和2年度～令和6年度【実施中】
事業概要	多彩な音楽や演劇等の公演、産業展示会、学術会議その他催事の開催により、文化芸術による市民文化の振興並びに都市魅力の創造及び発信を図るとともに、ものづくり力の強化及び交流人口の増加による都市成長力の強化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和2年4月～令和7年3月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】歩行者・自転車通行量：1,200人/日増 ※ 【最新値】令和3年度：5,746人/日【令和元年度（7,637人/日）比▲1,891人/日】（地点10）



	<p>※令和2年で終了した姫路市文化コンベンションセンター整備事業から連続性のある事業として取り扱う</p> <p>アクリエひめじ（姫路市文化コンベンションセンター）は、令和3年9月1日に開館した。当該施設には駅から徒歩でアクセス可能なルートも整備されているが、このルート上にあるキャストウォークは、通行量が昨年度と比べ増加している。開館後の来場者数は約74万人/年を目指しており、通行量も事業目標値（1,200人/日増加）達成に向けて増加していくことが見込まれる。</p> <p>令和3年度中の年間来館者数は約28万人であった。</p>
事業の今後について	<p>今後は、感染対策を講じつつ様々な規模の催事を通し、市民文化の振興並びに都市魅力の創造・発信につなげることで、地域住民の相互交流や中心市街地のにぎわいに波及し、ひいては都市の発展への寄与が期待される。</p>

②. 大手前通りエリア魅力向上推進事業（姫路市、民間等）

事業実施期間	令和2年度～令和5年度【実施中】
事業概要	再整備された大手前通りにおいて、人が滞留しにぎわう魅力的な空間を目指し、大手前通りのエリア価値向上に取り組む。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（姫路城周辺地区））（国土交通省）（令和2年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>【事業目標値】歩行者・自転車通行量：820人/日</p> <p>【最新値】令和3年度：5,662人/日【令和元年度（15,910人/日）比▲10,248人/日】（地点1, 2）</p> <p>大手前通りにおける令和3年度の通行量は5,662人/日（地点1及び2の合算値）となり、前年度（5,356人/日）に比べ若干の増加に転じたものの、感染症の流行拡大以前の平成31年度の15,910人/日と比べると35%に留まる。</p> <p>令和2年度から引き続き、大手前通りにストリートファニチャーを設置し、日常的な憩いの場を創出、段階的に人が居る状況をつくる社会実験を実施した。その結果、平日休日ともに通りでの滞在時間が大きく伸びた。特に休日の平均滞在時間は実験前の3.45分/人から6.00分/人となるなど、通りでの日常の過ごし方が定着してきたことがうかがえる。また、令和3年2月には、全歩行者利便増進道路（通称：ほこみち）に大手前通りを全国で初めて指定した。ほこみち制度の活用により、民間事業者へ大手前通りの長期的な道路占用許可を与え、民による設備投資や歩行者の滞留を促すようなアイデアを実現しやすい土壌を公が整備するものである。今後、当事</p>

	業の推進による日常的な大手前通りの利活用がさらに定着化していくことで、事業目標値（820人/日増加）の達成を目指す。
事業の今後について	ほこみち制度を活用し、民間事業者による大手前通りの日常的な運営・管理を行いながら、沿道建物1階の用途が通りに開かれ一体的に活用されるようになることで、大手前通りが歩いて楽しく、日常的に人が集まり憩う空間となりエリア価値が向上することを旨とする。

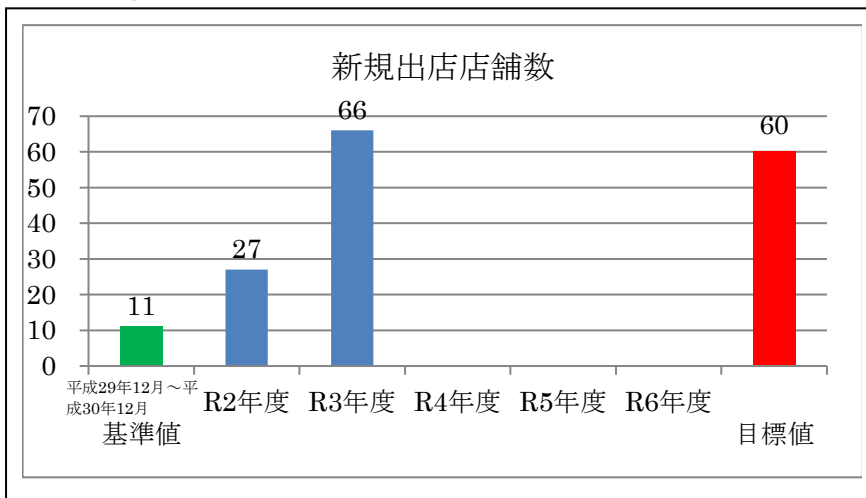
●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業は概ね順調に進捗しているが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、基準値から大きく減少するなど、想定していた成果は上げられていない。

今後は、「新たな生活様式」を念頭に置きつつ、大手前通りエリア魅力向上推進事業等の実施により、公共空間を有効活用して日常的な滞留行動を促し、周辺エリアへその効果を波及させていく。加えて「アクリエひめじ」や「県立はりま姫路医療センター」のオープンに伴い新たに生み出される人の流れを商店街や商業施設等との連携により他のエリアにも誘引し回遊を高める事業を実施することで、目標達成を目指す。

(2) 「新規出店店舗数」※目標設定の考え方は認定基本計画 P. 94 参照

●調査結果と分析



年	(単位)
H29.12	11
~H30.12	(基準年値)
R2	27
~R3 (累計)	66
~R4 (累計)	
~R5 (累計)	
~R6 (累計)	
R2~R6 の累計	60 (目標値)

令和3年度の新規出店数は39

※調査方法：調査員による現地調査（四半期ごと）

※調査月：令和3年4月～令和4年3月

※調査主体：姫路市

※調査対象：中心市街地15商店街

〈分析内容〉

新規出店店舗数の増加に向けた各事業については、概ね予定どおり進捗した。従来の出店地域や出店形態を見直し、好条件である地域密着型の商店街の空き店舗へ入居した事例や、テイクアウトを中心とした業態の新たな店舗の開店などが多く見受けられるなど、商店街における新陳代謝が促進されたことにより、昨年度に続き新規出店店舗数が

大きく増加した。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 中心市街地商店街空き店舗対策事業（姫路市、姫路商工会議所、商店街等）

事業実施期間	令和2年度～令和6年度【実施中】
事業概要	空き店舗への出店に対する支援を行うとともに、テナントミックス等により必要な業種・業態の適正配置を図り、新たな魅力ある店舗等の出店を促進する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和2年4月～令和7年3月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】令和6年度までの新規出店店舗数(累計)60 【最新値】令和3年度までに66店舗が新規出店 当事業による令和3年度の新規支援件数は14件であり、昨年度の6件と比べ倍増した。都市基盤整備等による中心市街地の魅力向上に伴い、商店街エリアにおいても賃料は高いが駅に近く立地の良い空き店舗や、駅から離れているが比較的賃料の安い空き店舗などが点在したことで、出店者が求める好条件の物件へ、当事業の支援に頼らない新規出店も多かったものと考えられる。
事業の今後について	引き続き商店街や事業者の声を聞きながら、支援内容の見直し等制度の拡充に向けて取り組み、新規出店店舗数の増加につなげていく。

②. 街なか創業支援事業（姫路市）

事業実施期間	令和2年度～令和6年度【実施中】
事業概要	まちなかの活性化に効果的で魅力ある店舗の創業を希望する意欲的な若者等へ支援を行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和2年4月～令和7年3月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】令和6年度までの新規出店店舗数(累計)60 【最新値】令和3年度までに66店舗が新規出店 当事業による令和3年度の支援実績は6件であった。昨年度の支援実績は0件であったことから、感染症の流行拡大で新規出店を見合わせていた事業者が、令和3年度にオープンへ舵を切ったものと推測される。
事業の今後について	創業希望者をサポートする創業セミナー等において制度を広く周知するなど、今後も事業推進を継続する。併せて制度の拡充についても検討し、創業・起業を目指す若者がよりチャレンジしやすい環境づくりを進めていく。

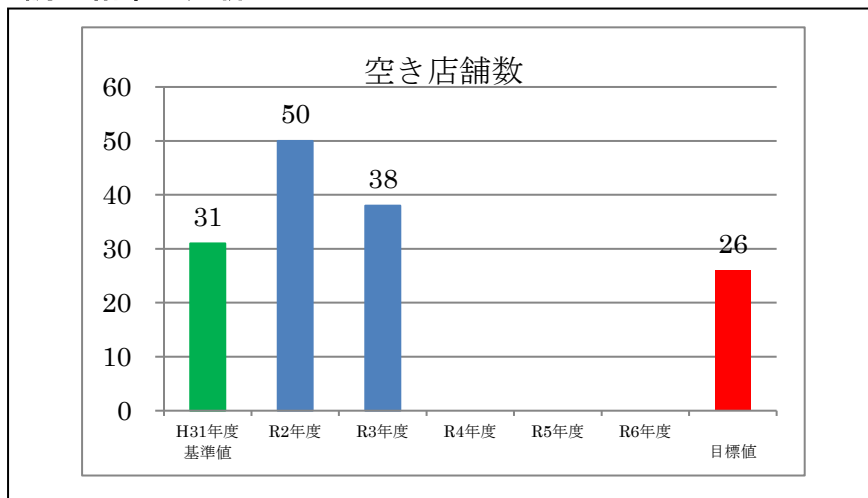
## ●目標達成の見通し及び今後の対策

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けつつも、計画開始二カ年で目標値を達成した。

今後は、既存の支援制度が、出店希望者・創業希望者のニーズに応じたものとなるよう支援内容の見直しを検討し、より利用しやすい制度へと改善に取り組む。また、「空き店舗はあるが、オーナーの貸し渋りが顕著」との特質を持った姫路駅西地区のエリア再生に向けて、リノベーションまちづくりにより、まちづくりの担い手の育成や若者がチャレンジしやすい環境づくりを進めることで、多様性のある店舗が生まれるポテンシャルを見出す。

※補完目標「空き店舗数」※目標設定の考え方は認定基本計画 P. 95 参照

## ●調査結果と分析



年	(単位)
H31	31 (基準年値)
R2	50
R3	38
R4	
R5	
R6	
R7.3	26 (目標値)

※調査方法：調査員による現地調査（毎年3月末）

※調査月：令和4年3月末実施、4月取りまとめ

※調査主体：姫路市

※調査対象：中心市街地内15商店街

### 〈分析内容〉

新規出店店舗数の補完目標である空き店舗数については、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発出等に伴い、休業や時短営業による影響はあったものの、昨年度の50店舗から38店舗へ減少するなど、改善の兆しが見られる。中心市街地商店街の空き店舗率は全国平均（13.77%：中小企業庁による平成30年度商店街実態調査結果）を下回る6.3%であったものの、営業店舗数の比較的少ない小溝筋商店街などでの空き店舗数の増加が顕著であった。

## ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

※数値目標（2）「新規出店店舗数」に記載したものと重複するため省略

【事業目標値】令和6年度の空き店舗数：28

【最新値】令和3年度の空き店舗数：38 令和3年度の新規出店店舗数と空き店舗数を比較すると、新規出店を促進する事業を推進することで空き店舗数も連動し

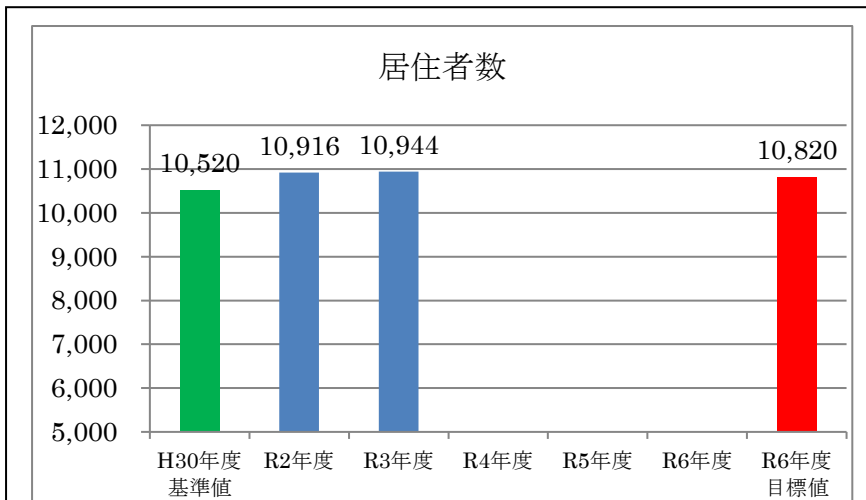
て減少していくものと考えられ、「中心市街地商店街空き店舗対策事業」「街なか創業支援事業」による事業効果が認められる。令和4年度以降も両数値の推移から事業効果を評価する。

●目標達成の見通し及び今後の対策

新規出店店舗数は堅調であり、感染症の流行拡大により増加した空き店舗数も改善の兆しが見られる。今後も、中心市街地商店街空き店舗対策事業や街なか創業支援事業を積極的に活用してもらえよう創業・起業を希望する方への周知・PRに努め、空き店舗の解消を目指す。

(3) 「居住者」※目標設定の考え方は認定基本計画 P.96～P.97 参照

●調査結果と分析



年	(単位)
H30	10,520 (基準年値)
R2	10,916
R3	10,944
R4	
R5	
R6	
R6	10,820 (目標値)

※調査方法：中心市街地内の住民基本台帳登録人口（毎年3月末）

※調査月：令和4年3月末実施、5月とりまとめ

※調査主体：姫路市

※調査対象：中心市街地内居住者

〈分析内容〉

居住者数の増加に向けた各事業については、概ね予定どおり進捗した。主要事業である姫路駅周辺土地区画整理事業のほか、駅南土地区画整理事業等により、中心市街地の魅力、まちなか居住の魅力が向上し、目標値を上回る居住者数の増加となった。区域内での民間事業者によるマンション建設は昨年度までと比べ落ち着きつつあり、大幅な居住者数の増加に至らなかった。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 姫路駅周辺土地区画整理事業（姫路市）

事業実施期間	平成元年度～令和6年度【実施中】
事業概要	JR山陽本線等の高架用地の確保、姫路駅を中心とする南北市街地の一体化及び駅前広場や都市計画道路等の公共施設の整備等により、「姫路の顔づくり」「播磨の顔づくり」として

	ふさわしい街区の形成を図る。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（道路事業）（国土交通省）（令和2年度～令和6年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】令和6年度の居住者数：10,820人 【最新値】令和3年度末の居住者数：10,944人 当該事業は当初の計画どおりに進捗し、令和3年度末の事業費ベースでの進捗率は94.7%である。事業目標値である484人の居住者数増加（新規住宅の供給200戸×本市の現況平均世帯人員2.42人/世帯：他の主要事業も含む計画区域内の合計値）に対して、当該事業区域内の居住者数ではこれまでに92人増加（自然増減数を含む）しており、順調に推移している。
事業の今後について	今後も引き続き、支障物件の移転交渉と内環状線東線の4車線化等を進め、令和6年度の事業完了を目指す。

②. 駅南土地区画整理事業（姫路駅南西地区）（姫路市）

事業実施期間	平成19年度～令和6年度【実施中】
事業概要	姫路駅南西地区の土地区画整理事業の施工により、都心部にふさわしい計画的な市街地として再生することを目的に、都市基盤施設の整備改善を行い、宅地の利用増進を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生区画整理事業）（国土交通省）（令和2年度～令和6年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】令和6年度の居住者数：10,820人 【最新値】令和3年度末の居住者数：10,944人 当該事業は当初の計画どおりに進捗し、令和3年度末の事業費ベースでの進捗率は79.2%である。事業目標値である484人の居住者数増加（新規住宅の供給200戸×本市の現況平均世帯人員2.42人/世帯：他の主要事業も含む計画区域内の合計値）に対して、当該事業区域内の居住者数ではこれまでに86人増加（自然増減数を含む）しており、順調に推移している。
事業の今後について	今後も引き続き、支障物件の移転交渉と区画道路の築造を進め、令和6年度の事業完了を目指す。

③. 県立はりま姫路総合医療センター整備事業（兵庫県、姫路市）

事業実施期間	令和2年度～令和6年度【実施中】
事業概要	県立はりま姫路総合医療センター等を整備することにより、播磨姫路圏域において、安定的・継続的に高度で良質な医療を提供するとともに、地域医療人材の確保に取り組む。
国の支援措置名	国の支援措置活用なし

及び支援期間	
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>【事業目標値】令和6年度の居住者数：10,820人</p> <p>【最新値】令和3年度末の居住者数：10,944人</p> <p>当該事業は当初の計画どおりに進捗し、令和3年度末の事業費ベースでの進捗率は95%程度である。令和3年11月末に竣工し、準備期間を経て令和4年5月1日に開院した。</p> <p>今後、当該医療機関が開院したことによって、事業目標値のさらなる底上げが見込まれる。</p>
事業の今後について	<p>順次機器及び病床を拡充。病床数は640床で開院し、早期のフルオープン（736床）を目指す。</p>

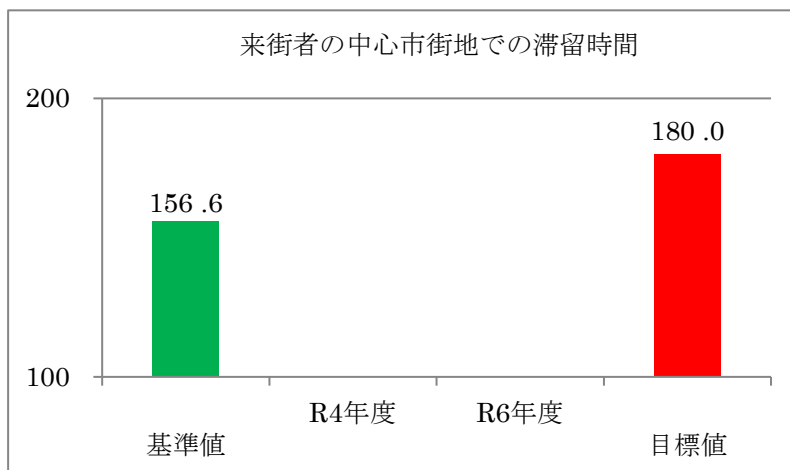
### ●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業は概ね順調に進捗している。新たに整備された「アクリエひめじ」は、文化芸術の拠点（音楽公演や舞台芸術などをはじめ、講演会や大規模な展示会等多彩な催事に対応できる施設）として、また同エリア（キャストィ21イベントゾーン）に整備される「県立はりま姫路総合医療センター」は、播磨姫路圏域の高度医療・急性期医療を担う総合医療機関に加え、医療人材育成・臨床研究の場としての医療人材育成機関の側面も兼ね備えている。

今後、それぞれ本市の新しい文化芸術の交流拠点や播磨地域一体の医療福祉のコア施設として機能していくことが期待されている。これらの施設が中心市街地の魅力や付加価値を更に向上させていくことから、新たな居住者の増加も見込まれる。

### ※補完目標「来街者の中心市街地での滞留時間」

※目標設定の考え方は認定基本計画 P.97 参照



年	(単位)
H31	156.6 分/人 (基準年値)
R4	
R6	180.0 分/人 (目標値)

※調査方法：調査員によるアンケート形式のヒアリング調査

※調査月：令和4年度に調査予定

※調査主体：姫路市

※調査対象：15歳以上の男女

## 〈分析内容〉

中間年度である令和4年度と、最終年度である令和6年度に調査を実施予定

### ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

#### ①. リノベーションまちづくりの推進（姫路市、姫路商工会議所、商店街等）

事業実施期間	令和2年度～令和6年度【実施中】
事業概要	空き店舗等の遊休不動産を活用したリノベーションまちづくりを推進する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和2年4月～令和7年3月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】来街者の中心市街地での滞留時間 180.0 分/人 【最新値】令和4年度に調査予定 リノベーションまちづくりによる姫路駅西地区のエリア再生に向けて、意欲のある市民を対象としたリノベーションスクールを、令和3年度中に2回開催した（新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により延期されていた第1回を令和3年6月に、第2回を令和4年1月に開催）。令和4年5月時点では、新規出店にまでは至っていないが、老齢の経営者から受講生への事業継承が1件行われた。
事業の今後について	姫路駅西地区においてリノベーションまちづくりを推進することにより、遊休不動産の増加や後継者不足といった地域課題の解決を図るとともに、民間事業者等のノウハウを活用した取組みを支援し、活力と賑わいのあるエリア再生を目指す。

### ●目標達成の見通し及び今後の対策

令和4年度より民間事業者によるほこみち制度を活用した大手前通りでのオープンカフェ等の取組み及び商店街や姫路駅西エリアでの新規出店店舗の増加により、中心市街地における回遊性が向上することで中心市街地での滞留時間が増加する見込み。